

## 豚肉の高品質化に有効 カンショ活用型豚肉生産技術

国産の飼料資源で高品質の豚肉を生産するためには、硬く粘りのある脂肪を生産できるカンショが候補になります。しかし、通常の食用カンショはコストが高く、飼料として活用するのは現実的とは言えません。そこで、畜産草地研究所は、千葉県畜産総合研究センター、熊本県農業研究センター、福岡県農業総合試験場および（株）熊本畜産流通センターと共同で、規格外カンショやカンショ菓子の残さ（カンショ残さ）などの未利用カンショを肥育豚用飼料として活用し、高品質で特徴のある豚肉を生産する技術を開発しました。

### ☆ 技術の概要

1. 飼料の調整と給与：規格外カンショやカンショ残さを集荷して乾燥後、規格外カンショは15%、カンショ残さは10%の割合で肥育豚用飼料に配合します。
2. 規格外カンショを15%配合した飼料を給与すると、規格外カンショを5%あるいは10%配合した飼料と比較して、豚の脂肪は飽和脂肪酸の割合が高くなります（図1）。この時、脂肪の融点も高くなります。
3. 畜産草地研究所の研究成果「リジン濃度が低い飼料の給与による豚の筋肉内脂肪含量の増加技術」と組み合わせることにより、カンショ残さを配合した飼料の給与で筋肉内脂肪含量が高い豚肉（霜降り豚肉）の生産が可能になります。

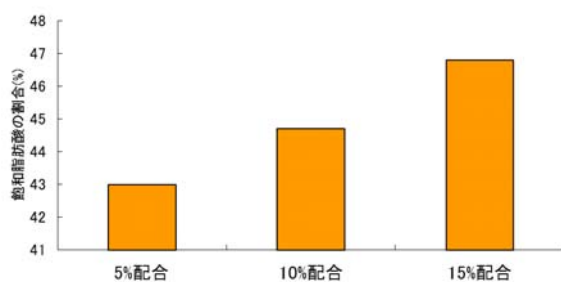


図1 規格外カンショの配合割合を高くすると、豚の脂肪の飽和脂肪酸の割合が高くなる

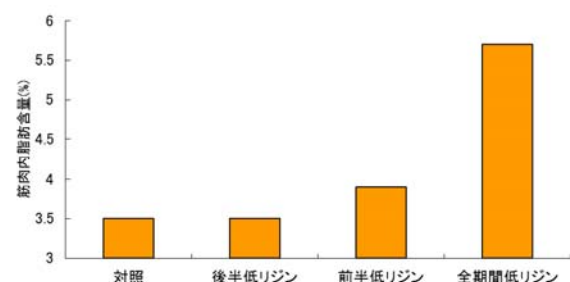


図2 カンショ残さを配合したリジン濃度の低い飼料の給与期間を長くすると、ロースの筋肉内脂肪含量が高くなる

### ☆ 活用面での留意点

1. 規格外カンショ、カンショ残さの集荷体制および乾燥方法は、各生産地で調整する必要があります。
2. カンショ残さに皮の部分が含まれている場合には、配合割合が10%を超えると飼料摂取量が低くなります。
3. 詳細については畜産草地研究所・情報広報課（TEL:029-838-8611、問い合わせフォーム <https://form.affrc.go.jp/nilgs-naro/inquiry/form.html>）にお問い合わせください。

（畜産草地研究所 分子栄養研究チーム長 勝俣昌也）